

I. 調査概要

◆調査対象：泉区内在住の20歳以上の男女3,000人

◆抽出方法：住民基本台帳から無作為抽出

◆調査方法：郵送によるアンケート形式

◆調査期間：平成26年8月1日～8月18日

◆回収数：1,588通（回収率52.9%）

◆集計結果の見方

- ① 図（グラフ）の中で使用されているアルファベットNは、その設問に対する回答者数をあらわす。
- ② 回答の比率（すべて百分率（%）で表示）は、その設問の回答者数を基数（件数）として算出している。したがって、複数回答の設問の場合、すべての比率を合計すると100%を超える場合がある。また、小数点以下第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100%にならない場合がある。

※概要数値の見方

数値はそれぞれ割合（%）を表示。基数の記述があるもの以外は有効回収数を基本としている（N=1,588）。

※クロス集計表の見方

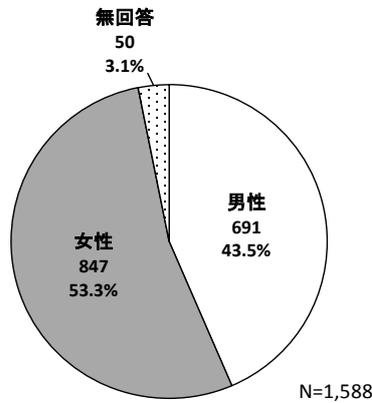
濃いグレーの塗りつぶし：選択肢の中で、第1位の項目については濃いグレーで塗りつぶし、白抜き文字にしている。

薄いグレーの塗りつぶし：属性別にみて、区全体の数値と比べて10ポイント以上高い数値の項目については、薄いグレーで塗りつぶして特記している。

II. 回答者の属性

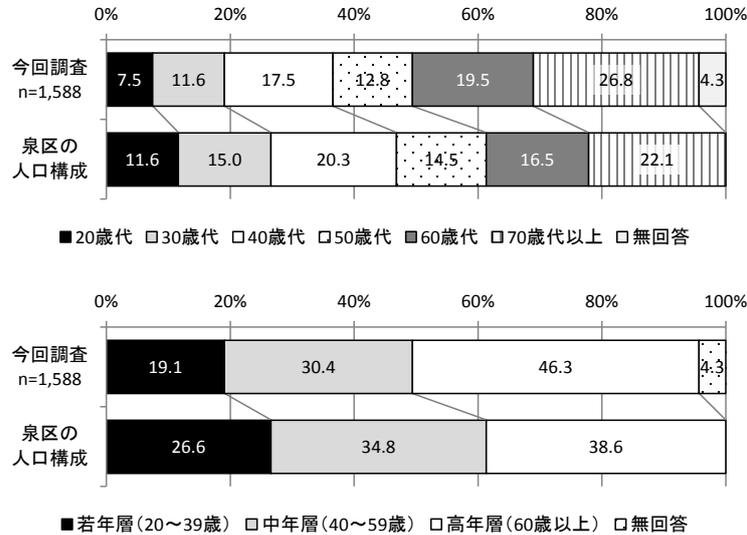
F1 性別(〇は1つ)

- ・女性 53.3%、男性 43.5%で、女性が 9.8 ポイント多い。



F2 年齢(〇は1つ)

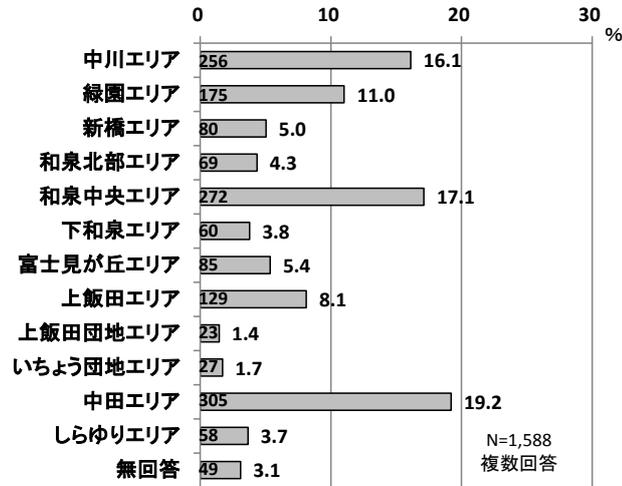
- ・最も多いのは 70 歳代以上の 26.8%、少ないのは 20 歳代の 7.5%である。
- ・年齢層別にみると、60 歳以上の高年層が 46.3%で最も多く、次いで 40 歳以上 60 歳未満の中年層 (30.4%)、40 歳未満の若年層 (19.1%) の順となっている。
- ・また、泉区の人口構成と比較すると、高年層の割合が高くなっており、中年層・低年層の割合が低くなっている。



出所) 横浜市ポータルサイト 横浜市・各区分 年齢別男女別人口 (住民基本台帳)
 注) 泉区人口は平成 26 年 9 月 30 日現在
 20 歳以上人口を抽出 (127, 651 人)

F3 居住地区(○は1つ)

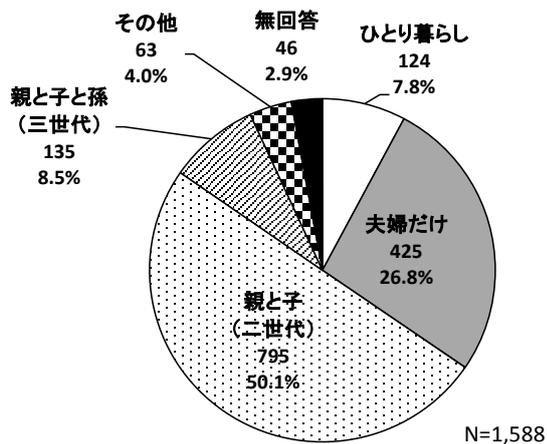
・最も多いのは「中田エリア」の19.2%、次いで「和泉中央エリア」(17.1%)、「中川エリア」(16.1%)
 続く。最も少ないのは「上飯田団地エリア」(1.4%)であった。



エリア名	町名
中川エリア	岡津町1～2000番、岡津町2001番～、桂坂、西が岡一丁目、西が岡二丁目、西が岡三丁目、弥生台、領家一丁目、領家二丁目、領家三丁目、領家四丁目
緑園エリア	緑園一丁目、緑園二丁目、緑園三丁目、緑園四丁目、緑園五丁目、緑園六丁目、緑園七丁目
新橋エリア	新橋町
和泉北部エリア	和泉町6001番～
和泉中央エリア	和泉町2001～4000番、和泉町4001～6000番
下和泉エリア	和泉が丘一丁目、和泉が丘二丁目、和泉が丘三丁目、下和泉四丁目、下和泉五丁目
富士見が丘エリア	和泉町1～2000番、下飯田町、下和泉一丁目、下和泉二丁目、下和泉三丁目
上飯田エリア	上飯田町1～2000番、上飯田町2001～4000番、上飯田町4001番～
上飯田団地エリア	上飯田1～2000のうち、居住形態が「賃貸物件(県営・市営)」
いちよう団地エリア	上飯田2001～4000のうち、居住形態が「賃貸物件(県営・市営)」
中田エリア	中田町、中田北一丁目、中田北二丁目、中田北三丁目、中田西一丁目、中田西二丁目、中田西三丁目、中田西四丁目、中田東一丁目、中田東三丁目、中田東四丁目、中田南一丁目、中田南二丁目、中田南三丁目、中田南四丁目、中田南五丁目
しらゆりエリア	白百合一丁目、白百合二丁目、白百合三丁目、中田東二丁目

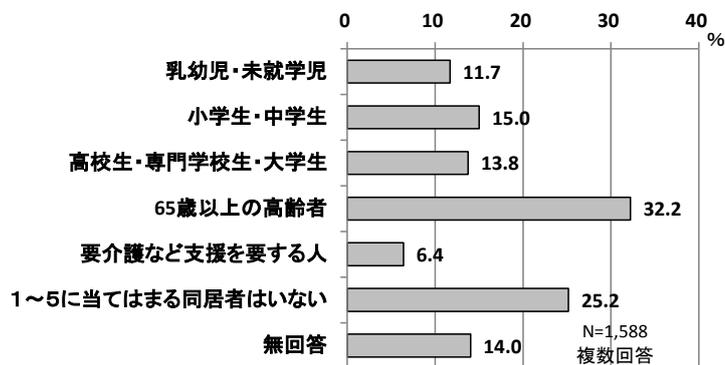
F4 家族構成(○は1つ)

- ・「親と子(二世代)」が50.1%で最も多く、全体の半数となっている。次いで「夫婦だけ」が26.8%で、全体の4分の1強である。以下「親と子と孫(三世代)」(8.5%)、「ひとり暮らし」(7.8%)、「その他」(4.0%)となっている。



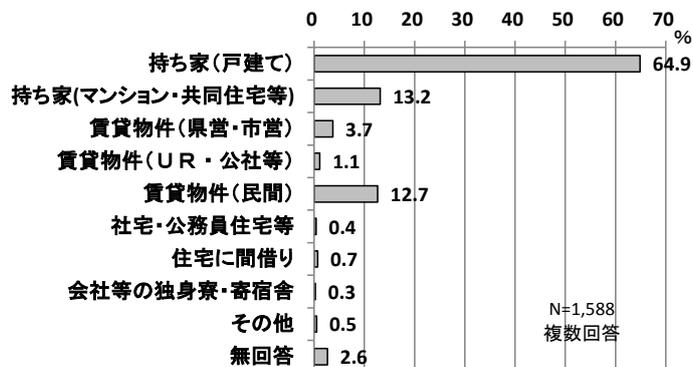
F5 乳幼児・未就学児、学童・学生、高齢者、要介護者の有無(○はいくつでも)

- ・「65歳以上の高齢者」がいると回答した人は32.2%で、3割を超える人が挙げている。「要介護など支援を要する人」がいると回答した人は6.4%で、1割に達していない。
- ・「乳幼児・未就学児」がいると回答した人11.7%、「小学生・中学生」は15.0%、「高校生・専門学校生・大学生」は13.8%である。
- ・「1~5に当てはまる同居者はいない」は25.2%となっている。



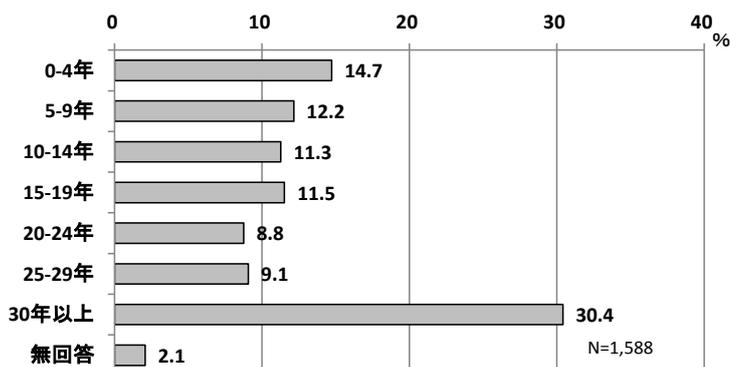
F6 居住形態(○は1つ)

- ・「持ち家(戸建て)」が64.9%で最も多く、次に「持ち家(マンション・共同住宅等)」が13.2%で、これらを合わせると78.0%と、持ち家比率は8割弱となっている。次いで「賃貸物件(民間)」が12.7%である。



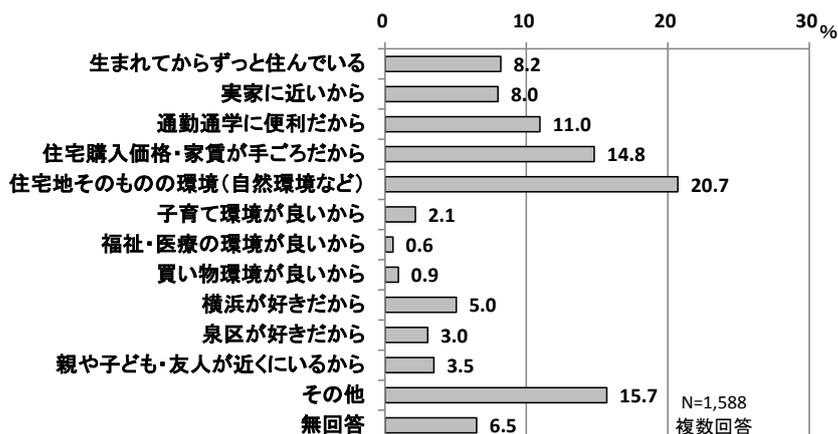
F7 居住年数(○は1つ)

- ・「30年以上」が30.4%で最も多く、全体の3割となっている。次いで「0-4年」が14.7%、「5-9年」が12.2%で、全体の4分の1が居住年数が10年未満となっている。



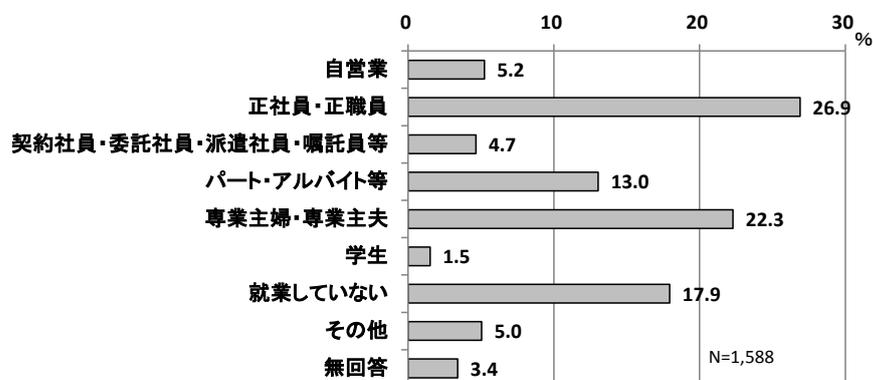
F8 現在の住まいを選んだ理由

- ・「住宅地そのものの環境（自然環境など）」が最も多く 20.7% となっている。次いで「住宅購入価格・家賃が手ごろだから」が 14.8%、「通勤通学に便利だから」が 11.0%で、1割以上の方が挙げている。以下「生まれてからずっと住んでいる」（8.2%）、「実家に近いから」（8.0%）と続く。



F9 就労状況(○は1つ)

- ・「正社員・正職員」が最も多く 26.9%で、全体の4分の1強となっている。次いで「専業主婦・専業主夫」が 22.3%で、2割強である。以下「就業していない」（17.9%）、「パート・アルバイト等」（13.0%）、「自営業」（5.2%）、「契約社員・委託社員・派遣社員・嘱託員等」（4.7%）、「学生」（1.5%）などと続く。



F10 自治会町内会への加入状況(○は1つ)

- ・「加入している」が 84.3%で圧倒的に多く 8割以上を占め、「加入していない」の 11.8%を 72.5ポイント上回っており、加入率は高水準である。

